

授 業 概 要

分 野	統合分野	科目名	看護管理と医療安全	担当講師	高階 優子 久保田いづみ
実施年次	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>看護師としては看護実践能力を身につけるだけでなく、よりよい看護を提供していくための看護のしくみがどうなっているか、多くの看護職者や医療・福祉関係者が同時に働くためには組織がどのように機能すればよいのかを知り、組織の一員として一貫した行動をとる必要がある。本科目では人的・物的・財的資源を効果的に活用するしくみとそのマネジメントの基本について学び、チーム医療・看護における看護師としての調整とリーダーシップのあり方を考える基礎とする。</p> <p>さらに、看護は何より対象者にとっての安全を優先しなければならない。医療現場では看護師が最終的な医療行為者や観察者になることが多く、わずかな見落としや間違いが重大な事故につながることもある。そこで、看護者としてリスク感性を高め、的確な判断力と技術を習得することの重要性と医療安全に関する知識を習得し、事故防止の認識を高めることをねらいとする。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指 導 方 法	
2	1. 看護におけるマネジメントの基礎的知識が理解できる	1) 看護とマネジメント	(1) 看護管理学とは ① 定義と概念 ② 基本要素「場、組織、サービス」 (2) 看護におけるマネジメント ① マネジメントの考え方の変遷 ② 看護職に求められるマネジメント ③ マネジメントプロセス	講義	
4	2. チーム医療・看護におけるマネジメントの実際を理解できる	1) ケアのマネジメント	(1) ケアのマネジメント ① 看護基準と看護手順 ② 患者の権利尊重 ③ 安全管理—事故・感染防止 ④ 情報管理 ⑤ ケア提供システムと看護職の協働 ⑥ 多職種との協働	講義	
2		2) 看護サービスのマネジメント	(1) 看護サービスのマネジメント ① 組織目標と評価 ② 組織化と協働；人材フロー ③ 人事労務管理 ④ 看護単位の機能と管理 (2) 情報のマネジメント (3) 技術のマネジメント キャリア開発のシステム 安全管理、医療機能評価	講義 グループワーク	
2	3. リーダーシップとマネジメントについて理解できる	1) リーダーシップ 2) 組織と個人	(1) リーダーシップの定義とスタイル (2) 組織の調整—組織文化、エンパワメント (3) ストレスマネジメント (4) タイムマネジメントとワークライフバランス	講義 グループワーク	
4	4. 医療安全と看護師の責務について理解できる	1) 医療安全を学ぶ意義	(1) 医療事故の増加とその背景・要因 ① 医療事故とは；事故・過失 ② インシデントとアクシデント ③ 医療の質の保障 ④ 医療安全に関する法	講義 演習；事例 検討	

10	<p>5. 事故発生のメカニズムが理解できる</p> <p>6. 事故分析の考え方と具体的な方法が理解できる</p>	<p>2) ヒューマンエラー</p> <p>3) 事故発生のメカニズムと事故の考え方</p> <p>4) 医療・看護事故の構造と防止策</p>	<p>(2) 人間の行動とヒューマンエラー</p> <p>① 人はなぜ間違いをおかすのか</p> <p>② エラー発生のメカニズム</p> <p>③ エラーの個人差</p> <p>(1) 事故分析の種類と分析方法</p> <p>① インシデントレポート</p> <p>② RCA (根本原因分析法) 分析法</p> <p>③ SHELL モデルと分析</p> <p>(2) 看護業務の特性と安全努力の責務</p> <p>① 医療行為の最終実施者である</p> <p>② 多重業務、中断と分担</p> <p>③ チーム医療</p> <p>(1) 医療・看護事故の構造と分類</p> <p>－ 2種5群の看護事故</p> <p>事故防止への2つの視点</p> <p>(2) 事故防止のステップ</p> <p>－ 間違いを防ぐ3ステップ</p> <p>危険の予測・評価で防ぐ2ステップ</p> <p>(3) 被害を受けた患者・家族へのケア</p> <p>－ 直後の障害拡大を防ぐ</p> <p>直後からのケア</p> <p>(4) 事故を起こした当事者へのケア</p> <p>(1) 医療安全対策システムの構築</p> <p>－ システムの改善</p> <p>安全管理指針</p> <p>組織体制</p> <p>(2) 事故報告・ヒヤリハット報告書の意義、役立つ分析</p> <p>(3) 安全文化の醸成</p> <p>－ 積極的な取り組み・共有・学び</p> <p>医療者間・患者及び家族との積極的なコミュニケーション</p> <p>領域を超えた職員研修</p> <p>(4) 医療安全管理の実務者の配置</p> <p>－ リスクマネージャー、セーフティマネージャーの役割</p> <p>専門領域を超えた役割</p>	<p>グループワーク</p> <p>演習; 事例検討</p> <p>グループワーク</p> <p>講義</p> <p>講義</p>
4	7. 組織的な医療安全体制について理解できる	1) 組織的な安全管理の考え方	<p>(1) 医療安全対策システムの構築</p> <p>－ システムの改善</p> <p>安全管理指針</p> <p>組織体制</p> <p>(2) 事故報告・ヒヤリハット報告書の意義、役立つ分析</p> <p>(3) 安全文化の醸成</p> <p>－ 積極的な取り組み・共有・学び</p> <p>医療者間・患者及び家族との積極的なコミュニケーション</p> <p>領域を超えた職員研修</p> <p>(4) 医療安全管理の実務者の配置</p> <p>－ リスクマネージャー、セーフティマネージャーの役割</p> <p>専門領域を超えた役割</p>	講義
2	試験			
テキスト	<p>系統看護学講座 看護の統合と実践①「看護管理」医学書院</p> <p>系統看護学講座 看護の統合と実践②「医療安全」医学書院</p>			
参考文献	<p>系統看護学講座 基礎看護学①「看護学概論」医学書院</p> <p>川村治子「医療安全ワークブック」第3版 医学書院</p> <p>ナーシング・グラフィカ 医療安全 メディカ出版</p>			
評価方法	筆記試験			

授 業 概 要

分 野	統合分野	科目名	災害看護と国際協力	担当講師	中尾百世 谷口留充
実施年次	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>災害看護とは、災害時だけでなく災害サイクル全てに関わる活動である。本科目では、災害直後から支援できるための基礎的知識・技術、救護チームの一員として冷静に行動できるための基本的な態度を、演習を中心に学ぶ。さらに、看護専門職として普段から防災に対する意識を高める重要性を理解する。</p> <p>先進国であるわが国は、保健医療分野における国際協力を期待され、これまで多くの活動が展開されている。国際的な医療・看護活動の仕組みや実際、グローバルな視点で健康課題をとらえ看護の役割を学ぶ。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. 災害医療を理解する	1) 災害医療の基礎知識	(1) 災害の定義と種類、健康障害・健康被害 (2) 災害サイクルと各期の医療活動 (3) 災害医療に関わる法制度 (4) 災害時の支援体制と医療制度 情報システムと職種間・組織間連携 (5) 国内救援活動の実際と課題	講義	
2	2. 災害看護の特徴を理解する	1) 災害看護の基礎知識	(1) 災害看護の定義と役割 (2) 災害看護の対象 (3) 災害看護の特徴 災害場面における倫理 救急看護との基本的な違いと共通点 要配慮者・避難行動要援護者	講義	
8	3. 災害サイクルに応じた活動を理解する	1) 災害看護活動	(1) 災害サイクル各期の現場別の看護 被災者特性に応じた災害看護の展開 急性期・亜急性期・慢性期・復興期・静穏期 子ども・妊産婦・高齢者・障害者・精神障害者・慢性疾患患者・原子力災害による被災者・在留外国人	講義 演習 グループワーク	
6		2) 災害時の看護技術と看護の展開	(1) 心のケアについて (2) 災害看護技術の実際 模擬患者へのトリアージ(演習) 搬送・移送(演習)及び感染対策・手洗い、手指衛生 包帯法(三角布含む)(演習)	演習 演習 演習	
4	4. 国際看護の概要を理解する	1) グローバル化と世界共通の健康目標	(1) グローバリゼーションと国際看護 SDGs (2) プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション	講義 グループワーク	

2		2) 多様な文化と看護	(3) 人間の安全保障 (4) 健康格差 (1) 異文化理解 (2) 看護の対象 (3) 文化を考慮した看護	講義 グループワーク
2	5. 国際協力活動と看護の対象、展開過程を理解する	1) 国際協力のしくみと国際保健の基本理念と看護活動と看護の役割	(1) 国際協力のしくみ、機関、役割 (2) 国際協力活動を必要とする人々、地域、組織 (3) 国際協力活動において看護が果たす役割	講義 グループワーク
2		2) 国際救援活動と看護	(1) 国際緊急援助 政府開発援助 開発協力 (2) 国際救援と看護 (3) 国際看護活動の展開と展開過程 (4) 国際看護活動の課題	講義
2		試験		
テキスト	ナッシンググラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 メグィ出版 系統看護学講座 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 医学書院			
参考文献	系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院			
評価方法	筆記試験 授業取り組み状況及び課題レポート			